

審査練習のポイント

2014/9/6,7

執り弓の姿勢

矢と弓の角度を揃え、後ろから見て二等辺三角形になるようにする。

礼、揖の時も角度を変えないように注意。矢は先端から10センチの所（射つけ節）を持つ。

目線

立っている、歩いている時は4メートル先、膝立ちの時は3メートル先、座っている時は2メートル先を見る。下を向くことになるが、うつむいたり猫背にならないように。

→物見を入れた時に初めての的を見ることとなる。

タイミング

・入場

大前は8カウントで礼をして、的以降は4カウントで揖をする。

前の人と歩くタイミングを合わせて、足の動きが揃うようにする。

・射位に入ってから以降の動きは大前が先導して、的以降は自分より前の人を追い越さない。が、五人の動きが揃うのが理想なので追い越すくらいの気持ちで行うとうまくいく。

・60秒で70歩進む間隔でカウント。

“生かす”

“生かす”とは、大切なものを持っている側の膝と、反対側のおしりを少し上げること。上げるのは紙が一枚入る程度の高さ。

生かすのは本座で揖をする前、射位で弓を立てた後、乙矢を射つけ節に持ち直す前である。

射位以降の動き

・的は、大前が胴作りをした（腰に手を添えた）ら立ち上がって行射を始める。三的以降はふたつ前の人から離れをしたら立ち上がり行射を始める。

・乙矢について

大前、的、三的は落ち前が離れたら弓を立てる。落ち前は落ちが離れたら弓を立てる。

落ちが弓を立てるタイミングは決まっていないので、自分のタイミングで立てる。